

「第6回グローバル人材フォーラム」実施報告書



作成:特定非営利活動法人グローバル人材開発センター

実施概要

事業名称 : 大学間連携共同教育推進事業「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度(GPM)の開発」平成30年度成果報告会
『第6回グローバル人材フォーラム』

実施場所 : 京都国立博物館
〒605-0931 京都府京都市東山区茶屋町 527

実施期間 : 2019年2月22日(金) 開会 13:00 閉会 19:30

プログラム : 第1部 (13:00~15:00)
○開会の挨拶 細川 涼一 氏 (京都橘大学学長)
○グローバルコンペティション
第2部 (15:00~16:30)
○学生×企業人のポスターセッション&トークセッション
第3部 (17:00~17:30)
○アワードセレモニー
○閉会の挨拶 榊田 隆之 氏
(京都信用金庫 理事長/NPO 法人グローバルセンター代表理事)
第4部 (18:00~19:30)
○交流会
「ホテル東山閣」〒605-0932 京都府京都市東山区妙法院前側町 431

来場者数 : 143名(学生77名、社会人66名、招聘者・審査員7名)

第1部 (13:00~15:00) 平成知新館 講堂

<開会挨拶> 細川 涼一 氏 (京都橘大学学長)

開会に先立ちまして、ご挨拶を申し上げます。ちょうど今年
は明治150年ということでもあります。京都というまちにと
っては今から150年前に首都が東京に移り、これからどうし
ていこうかというときに、やはりこれからは人材育成だとい
うことで、京都は大学のまちになった。もう一つ当時の京都
で言えば先端産業でありました西陣、それをもって京都は産
業のまちにもなろうということで、西陣に代表されるような
産業が盛んになった。いわば首都が東京に移ったときから、



京都はどうしていこうかという中で、教育と先端産業を進めてきた。そういうまちだと思
います。そういう中で、おかげさまで私どもの大学も含め、京都の大学というのは、学生
さんが色々なことを京都で学びたいということに来てくれます。ただ残念なことに、18歳
で京都の大学に学びに来ていただくんですが、22歳で京都以外の所に就職してしまう、そ
ういう率も東京などに比べれば高いというところがあります。そういう意味で人材育成と
先端産業、これががっちりスクラムを組みまして、京都の大学で学び、京都の大学に就職
をしていく。グローバル人材は、ここで育ち、そして暮らしていくというようなことがで
きれば望ましいと思っております。



本日のこのフォーラムは、企業の皆さまがたに多大なご協力を
いただきまして、そして学生たちが、自分たちのいわば学習の成
果を発表する場であります。こういうことを積み重ねていくこと
で、企業の皆さまがたと大学や京都市をはじめとする行政などと、
連携を深めてまいりたいと思ってお
ります。私は、申し訳ありませんけれども、この後自分の勤務先
のほうで用がありまして、学生さんの発表を全部は見られないの
ですけれども、私自身この後の発表を楽しみにしております。本
日はよろしくご挨拶申し上げます。



審査員紹介

社会の多様な視点から学生の学びについてフィードバックを行うため、第1部発表の審査に産・学・公から審査員を招聘した。産学公民の連携による人材育成をより具体的なものにしていく対話を生むことを目的としている。

石津 友啓 氏 京都経営者協会 専務理事
嵯峨 亜希子 氏 京都市役所総合企画局 総合政策室 留学生支援係長
Eric Luong 氏 京都造形芸術大学准教授
大垣 守可 氏 株式会社大垣書店 総合企画部課長代理
田辺 信裕 氏 株式会社ジーユー 人事部長

<審査員より発表前の学生へのメッセージ>

(大垣 守可 氏)

皆さん、こんにちは。初めましての人がほとんどですね。プレゼンテーションするということで、緊張すると思いますが、審査員は発表を楽しみに来ています。正解があるとか失敗するとか、そういったことは気にしていませんので、思う存分力を発揮してもらって、ボケたりしても笑いますので、気楽にやっていきましょう。

(Eric Luong 氏)

皆さん、初めまして。一つ、先生らしく話します。世界、社会に出るとハードとソフトの制約がありますね。ハードはどちらかというと知識もしくは技術。でも、ほとんどはソフトで動いています。ソフトは何かというと、発表の仕方とか人間関係、コミュニケーション、チームワーク。ですから、日本の教育ではあまり人前で発表をしないと聞きましたが、こういったみんなの前で発表することは非常に大事です。それは慣れないといけません。私も初めて先生として仕事をするのはすごく緊張しましたが、みんな、初めてのことでだんだん慣れてきます。ですからどんどんチャレンジしてください。今日は頑張ってください。楽しみにしています。

グローバルコンペティション

グローバルプロジェクトマネジャー（GPM）資格プログラムを実施する連携6大学（京都産業大学、京都府立大学、京都文教大学、佛教大学、龍谷大学、京都橘大学）とNPO 法人グローバル人材開発センターの大学混合チームより各1チームの全7チームが出場し、学生と京都企業との連携プロジェクトの取組についてコンペティション形式で成果発表を行った。産学官から招聘された審査員が「グランプリ」、「準グランプリ」を選出し、来場者は投票により「オーディエンス賞」を選出した。

第1部参加チーム一覧

発表 番号	所属（授業名等）	プロジェクト名	チーム名
発表 No.1		京都府立大学 京都府立大学 COC+北部 PBL	COC+チームたんてつ (WILLER TRAINS 株式会社)
発表 No.2		京都産業大学 前田珈琲プロジェクトチーム	(有限会社前田珈琲)
発表 No.3		龍谷大学 グローバル戦略実践演習 京焼窯元陶葺チーム	(京焼窯元陶葺)
発表 No.4		京都橘大学 就活お悩み解決プロジェクト！企業の中までシッテ Q	(日新電機株式会社)
発表 No.5		佛教大学 株式会社 WorldLink & Company SkyLink Japan プロジェクト チーム (株式会社 WorldLink & Company SkyLink Japan)	
発表 No.6		京都文教大学 『京都・滋賀しごと Navi2019』冊子作成プロジェクト (京都中小企業家同友会、株式会社イワサキ、株式会社マキノデンキ、株式会社ジョーニシ)	
発表 No.7		グローバル人材開発センター TKG×Art プロジェクト (株式会社特殊高所技術)	

第2部 (15:15~16:45) 明治古都館 玄関ホール、中央ホール

学生×企業人のポスターセッション&トークセッション

グローバル人材 PBL を実施する連携6大学と NPO 法人グローバル人材開発センターの大学混合チームから全7チームが出場し、学生と京都企業との連携プロジェクトの取組についてポスターセッション形式で成果発表を行った。

参加者は学生と企業人が混合グループを編成して各学生チームの発表を聞き、グループ内で評価の視点について話し合いながら優秀賞に推薦するチームを選択し、優秀賞を決定した。

第2部参加チーム一覧

ポスター 番号	所属 (授業名等)	プロジェクト名	チーム名
①		龍谷大学 大東寝具チーム (大東寝具工業株式会社)	
②		京都文教大学 『京都・滋賀しごと Navi2019』冊子作成プロジェクト (京都中小企業家同友会、株式会社イワサキ、株式会社西浅、株式会社澤村)	
③		グローバル人材開発センター SPINNS×GLOCAL Makes Style Project (株式会社ヒューマンフォーラム SPINNS 京都本店)	
④		佛教大学 産学公連携プロジェクト京都ジョブパークチーム (京都ジョブパーク)	
⑤		龍谷大学 ティーヘッドチーム (株式会社ティーヘッド)	
⑥		京都産業大学 OPA チーム (株式会社 OPA 河原町オーパ)	
⑦		龍谷大学 山本本家チーム (株式会社山本本家)	

第3部 (17:00~17:30) 平成知新館 講堂

プログラムをふりかえって

<第2部について> (NPO 法人グローバル人材開発センター コーディネーター 木下)

第2部においては、「対話を通じて未来の評価の形を考える」ということで、ポスターセッションを見て回っていただいた内容を、参加者の皆さまと発表した学生がの混合グループを作って評価していくということをしました。

混合グループの中でも「どこも良かった、評価の視点がたくさんあり過ぎて、どのチームが1番と評価できない。」という意見もありましたが、本当に色々な評価の項目が出てきて、どこが賞を取ってもよかったのではないかと、という完成度と、多様な評価の視点が出てきたと思います。プログラムを通じて、評価とは何なのかというところを今一度見直すきっかけになっていけばと思います。

このように色々な立場のかたがたが集まって対話ができる場、学生たちの活動を見ていただき社会の多様な視点から評価を一緒にしていただける場を、今日のグローバル人材フォーラム、グローバルセンターのプログラム、学生と企業人のプロジェクトだけではなく、社会のためになるプログラムすべてについてもできていたら、もっともっと社会は良くなっていくんじゃないかと感じるようなダイアログでした。皆さん、本当にありがとうございました。

<第1部・第2部について>

(Eric Luong 氏)

皆さん、長時間お疲れさまでした。うちの大学でも色々なイベントをするんですが、こんな規模で色々な大学を混ぜて取り組みを紹介するのは本当に初めてですし、すごく刺激的ですね。僕はカナダから参りました。それでずっと10年間ぐらい京都造形芸術大学で勤めていますが、次年度うちの大学も本当に参加したいですね。

最初に申し上げたように、こういうソフトのところ、チームワーク、コミュニケーション、そして一番はプレゼンテーションですから今日は本当にいい勉強の機会です。人間関係、チームワークをつくることもこれから社会出てから本当にすごく大事です。そして緊張することは非常に良いことだと思います。みんな避けたいと思うけれど、緊張することはやはり成長することにつながりますね。次に発表するときは、絶対今日ほど緊張しないと思います。ですから逆に、もっと緊張したほうがいいです。「緊張」を求めます。

アワードセレモニー

第1部出場の7チーム、第2部出場の7チームより5チームが下記の通り受賞しました。

《第1部》

グランプリ	龍谷大学 京焼窯元陶葺チーム
準グランプリ	京都文教大学 京都滋賀仕事 Navi プロジェクト 2019
オーディエンス賞	京都文教大学 京都滋賀仕事 Navi プロジェクト 2019

《第2部》

優 秀 賞	・京都産業大学 OPA プロジェクト ・京都文教大学 京都滋賀仕事 Navi プロジェクト 2019
-------	---

<学生チームへのコメント>

第2部 京都産業大学 OPA プロジェクト

京都文教大学京都滋賀仕事 Navi プロジェクト 2019

皆さん、第2部に参加されたかと思いますが、非常に難しいワークショップだったのかなという印象があります。各チームそれぞれ、まず評価軸を自分で決める。その評価軸の上で評価をして、さらに推薦するというふうに3段階くらいのハードルを越えて評価されているのかなと思います。評価軸を決めるということは、ビジネス的な視点なのか、作成のアイデアという点を取り上げるのか、いい意味ですごく統一感がないワークショップをされている中で集中して見られているところは、やはりそれなりにいい物をちゃんと作っておられるんだなというふうに私も考えています。

私も、はじめに少し言いましたけれども、やはり、このプレゼンっていうのは大切だと思います。言いたいことがしっかりまとまっているのか、そういうところが、どういう評価軸であっても、やっぱり人にちゃんと伝わるんだなというのは、見ても感じましたので、これからも人に伝わるプレゼン、人に伝わるアイデアをどんどん出していただきたいなと思います。本当におめでとうございます。(大垣 守可 氏)

第1部 京都文教大学 京都滋賀仕事ナビ 2019年プロジェクト

プレゼンというのは、最適に聞き手側の中の何かを変えることが目的ですね。説得をするとか、感動させるとか、もしくは仲良くするとか、ただ情報を伝えるだけじゃなくて、その意味で、会場の皆さんからの評価というのは非常に大事な賞だと思います。あと最初はちょっと緊張していたんですけど、だんだん落ち着いて、すごく論理的に発表していましたね。伝え方もすごく分かりやすいし、それから非常に聞きやすい。おめでとう。(Eric Luong 氏)

第1部 グローカルセンター TKG × Art プロジェクト

グランプリの審査にあたりまして、審査員の中でも票が分かれるぐらい僅差での2位でした。難しい課題だったと思うんですけども、緻密に書かれて、また会社も巻き込んでプロジェクトを大きく成長させていかれたのかなと思います。またコミュニケーションが素晴らしくて、熱意あふれるものであった。その結果プレゼンの時間がちょっとオーバーし、それが減点にはなってしまったんですけども、今日会場の皆さまにも熱意が伝わったのではないかと思います。おめでとうございます。(嵯峨 亜希子 氏)

第1部 龍谷大学 京焼窯元陶葺チーム

投票ということで、全体の話をする、本当に先ほどお話、嵯峨さんからありましたとおり、上位チームは僅差でした。最後、票が割れていたところが、プレゼンテーションの能力、説明する能力の部分とグローバルな視点というところで差がついたのかなという感じがします。プレゼンということでは、伝える力ではなくて、伝わる力だと僕は思います。話すのではなくて、相手を説明できる能力、これを皆さん考えていると思います。

もう一つは「グローバル」というのは、「グローバルイズローカル」、「ローカルイズグローバル」、決して海外と国内の話にしてるのではなくて、海外や日本を、壁を取っ払って結び付けるという意味が、グローバルという言葉なんですけど、そういった視点が入った方が勝利を得たのではないかというふうに思います。龍谷大学さんは、今言ったように、まず説明する能力があった、それから「ガチャ」という発想、僕らが思い付かない発想、これで海外と日本という壁を乗り越えたということが評価されたということだと思います。おめでとうございます。(田辺 信裕 氏)

学生へのメッセージ

学生の皆さんへ。残念ながら今回は賞にもれたチームへ対してのコメントも含めて、メッセージを送らせていただきます。3年続けて審査員を務めさせていただきましたが、昨年と比べると、かなりレベルアップしたように思います。昨年は、総括コメントをさせていただき、少し辛口コメントをさせていただきましたが、今回はその必要はなさそうでした。まず全てのチームがしっかり練習してきたのでしょう。それがよく伝わりました。学生時代から、このように企業人と関わりながら社会人としてのステップをはかっていける今の世の中を、大変うらやましく思います。学生の皆さん、京都には素敵な中小企業が本当にたくさんあります。ぜひ、そういった企業も就職活動の対象として、勉強に励んで、もっともっとプレゼンテーションであったり、外でチャレンジをしてください。うらやましいです。石津より。(石津 友啓 氏)

<閉会挨拶> 榊田 隆之氏

(京都信用金庫 専務理事/NPO 法人グローバル人材開発センター 代表理事)

ご紹介をいただきましたグローバル人材開発センターの代表をさせていただきます。京都市信用金庫の榊田と申します。

閉会にあたりまして一言、お礼のご挨拶を申し上げたいと思います。まずは本日、このようにお忙しい中たくさんの方にお集まりいただきまして、皆さまがたのご理解とご参加があつて初めて成立するこのグローバル人材フォーラム、今回で第6回目を迎えることができました。本当に今年も大勢の皆さまがたにお時間を割いてご出席いただきましたことを、改めてまずお礼を申し上げたいと思います。そして今年は特にこの会場、京都国立博物館、めったには皆さんがた来られない、そしてこういった目的でこの会場を使うことは、ほとんど許されないといいほど特別な場所です。今回この場所でこのようなことをできることを誠に光栄に思います。ご協力を賜りました佐々木館長様をはじめ、京国博の皆さまがたに改めてお礼を申し上げたいと思います。そして先ほど壇上で待ちぼうけを食らっていらっしやいました審査員の皆さまがた、本当に長時間にわたってこの審査に当たっていただき、お時間だけではなくて本当に熱い思いとそして情熱を傾けていただきまして、おかげさまで素晴らしいこのコンテストがこういう形で終わることができましたことを、改めて皆さまがたにお礼を申し上げたいと思います。こうして働いております各大学の皆さまがた、そしてお忙しい中お仕事を割いてご参加いただいた企業の、企業人の皆さまがたにもお礼を申し上げます。



学生さんと企業の人たち、そして大学、このように違うバックグラウンドの人々が、こうして1日真剣に集まって話をする場があることはすごく貴重だと思います。私もグローバルセンターの代表をさせていただいて、本当に私自身が一番、皆さまがたに成長させていただいていると思っております。

先ほどありましたけれども、私は実は第1部のところが少し見られておりません。今日は、ちょっと他の用がありまして第2部の途中から参加させていただいておりました。ただ、いつもどおり学生さんが立派に発表されたのだなというふうに予想をしております。

今回1部のこのPBLのプレゼンテーション、本当に先ほどエリックが言っていました、PBLというのは、いわゆるチームワーク、あるいはフィールドワーク、そして本日のプレゼンテーション、この三つの要素が組み合わさった素晴らしい、アクティブラーニングの手法だというふうに思っております。

緊張して成長すると言っていました。今日はその三つのうちの最後のプレゼンテーション、仕上げの部分に当たりますけれども、多分緊張されたと思います。緊張した分、多分度胸も付く、そしてこうやって場数を踏むことによって次回、何か大きな会で発表してくれって言われても、いや、このグローバルセンターのこのフォーラムで発表したから大丈夫って言える自分がきっとあるのではないかと思います。そういう形で、このPBLを、皆さんがた真剣に取り組んで今日自信を持って発表されたことを、改めて私のほうからも素晴らしいことだと思います。

参加させていただいたポスターセッション、そしてそれが社会人と学生さんのトークセッション、ダイアログでもあった。こうやって対話を通じて共有する、そしてみんなで作り上げていく、人の話を聞いてそして自分の意見を言って、そしてチームとしてまとめ上げていく。こういうふうな対話が、いかに大事なのかということ、対話が評価につながるという話がありましたけれども、まさしくこのPBLの3要素と併せて、対話から生まれる気付きってというのがすごく大事なんじゃないかなというふうにも思いました。

最後表彰されて選ばれた方も、選ばれなかった方も、今日はイコールだと私は思います。皆さん、素晴らしいフィールドでこうやって1日を過ごしたこと、この時間を共有したこと、こういうことが大事なんじゃないかと思っております。グローバルセンターの設立の趣旨というの、当初は学生さんに、そういう座学ではなくて、もっとアクティブな、この社会に出て会社で働く人とかあるいは社会人と触れて、そして社会の課題なんかを一緒に考えていく。そういう形でスタートしたというふうに記憶しておりますが、6、7年が経過してだいぶんと社会の背景も変わってきております。でも、変わるものと変わらないものがある。随分と時代背景は変わって、今やわれわれ企業人のほうが学生さんともっともっと対話をしたい、そして、こういう若い人たちの感性なんかをもっと聞かせていただいて、われわれの経営なんかに反映させたいという思いが、多分昔よりも強くなってきていると思います。学生さんも社会に出るに際して、やっぱり時代がどんどん変わってきますから、もっと社会人と話すこともやはり有意義かなというふうに思います。

ただ、世の中はもっともっと今、深刻で、先ほど石津さんのコメントにありましたけども、京都の企業には優秀な学生さんがもっともっと来てほしいっていう、そのミスマッチがますます深刻になっていく。われわれ企業人は一番の経営課題は誰に聞いても、「人が育たない」、「人が来ない」、「人が来てもすぐ辞めてしまう」、このような人、人、人、人にまつわる課題ばかりになっています。だからこそ、今、改めてこのグローバルセンターが学生さんと社会を、企業をつなぐそういうふうな役割を果たすことによって、皆さんがたと一緒に豊かな地域をつくっていけるんじゃないかなと思っております。

「ソーシャル」という言葉がありますけども、社会に出ることってそんなに怖いことじゃないです。世の中で役に立つこと、あるいは仕事を通じて自分が成長できること、たくさん生きる喜び、これもやっぱり社会で学生さんが、われわれちゃんとした社会人と接することによって感じていただいて、そして実際に働き出したら自分も頑張ろうというふうな、そういうものじゃないかなと思います。

たくさん申しあげましたけども、本当にグローバルセンター、皆さんがたのこの情熱、そしてご理解ご支援、こういったものが重なって、何とかやっております。日頃から、今日も、グローバルセンターのスタッフのみんなは本当に献身的に、このグローバルセンターの活動を通じて皆さんがたの役に立ちたい、そして地域をもっともっと元気にしたいという気持ちのその一心でやってくれています。そういうスタッフのみんなにも、感謝の気持ちを伝えて、お礼のご挨拶とさせていただきますというふうに思います。本当に貴重な時間、皆さんがたと一緒にさせていただいて、ありがとうございます。本日は、どうもありがとうございます。

第4部 (18:00~19:30)

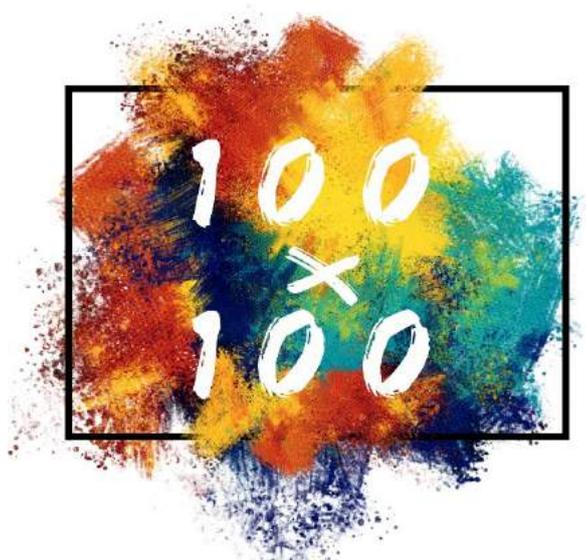
交流会

参加者による交流会を開催し、約80名が参加しました。

実施風景 (第1部~第5部)



「第6回グローバル人材フォーラム」アンケート 集計結果



開催日時： 2019年2月22日(金) 13:00～17:30

開催場所： 京都国立博物館

アンケート対象者 136 名

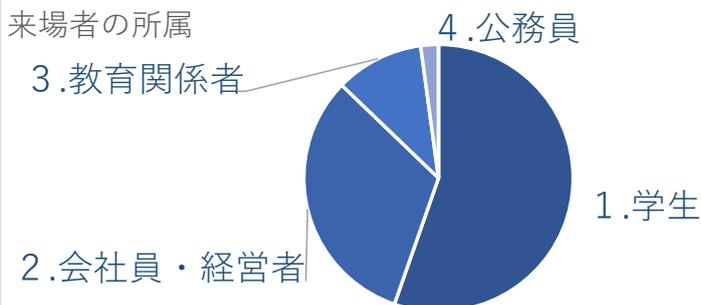
(内訳)

第一部発表学生	20
第二部発表学生	23
来場者（学生）	21
来場者（連携大学教職員）	16
来場者（企業人）	43

アンケート回収数 47 枚

1 所属について教えてください。（当てはまるものに、○をつけて下さい。）

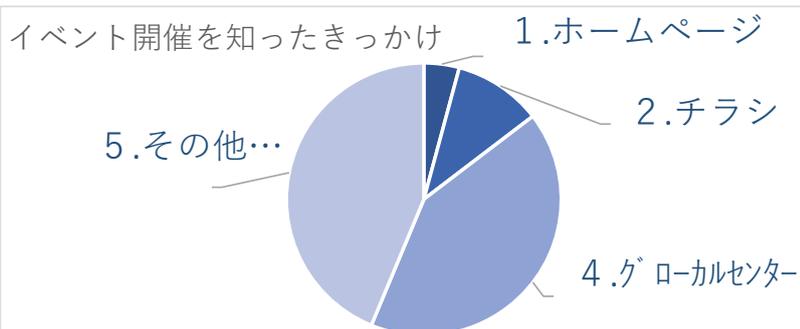
来場者の所属



1. 学生	26
2. 会社員・経営者	15
3. 教育関係者	5
4. 公務員	1
5. その他 ()	0

2 どちらでこのフォーラムをお知りになりましたか。（当てはまるものに、○をつけて下さい。複数回答可。）

イベント開催を知ったきっかけ



1. ホームページ	2
2. チラシ	5
3. 新聞広告	0
4. グローカルセンター	20
5. その他 ()	21
計	48

「その他」内訳

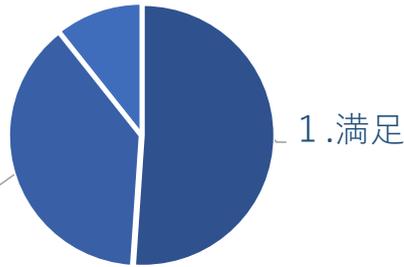
同友会	5
大学	5
授業/学校の授業	4
Facebook	3
学校	2
構成団体のため	1
社内から	1
GCスタッフからの紹介	1

3 本日、ご参加されたプログラムの満足度を教えてください。（当てはまるものに、○をつけて下さい。）

第1部 グローバルコンペティション

第1部 満足度

3.どちらとも言えない
2.やや満足



1.満足	24
2.やや満足	18
3.どちらとも言えない	5
4.やや不満	0
5.不満	0
6.不参加	0
計	47

理由や感想をお聞かせください

<学生>

1.満足

- ・ 企業について調査するだけでなく、現状の問題点や課題について解決策を探し出すことができた為。
- ・ 社会人からのフィードバックをいただけて自分たちの発表をより客観視することが出来ました。
- ・ 興味深い内容でした。短い制限時間の中でうまくまとめていた為話に入りやすかったです。
- ・ 正味の学生ならではの新鮮な気付きや熱い思いなどが分かり、良かったです。
- ・ 自分では思いつかないような視点から課題にアプローチしていた。
- ・ 非日常な経験を通じ、いろんな発見がありおもしろかった。
- ・ 10分間では発表しきれない。じっくり聞きたい
- ・ いろんな話を聞いたので
- ・ とても充実していた
- ・ おもしろかった

2.やや満足

- ・ この多くの人数の前で発表する機会を得ることができ良かった。
- ・ 他大学の色々なアイデアを知ることができた
- ・ ばたばたしている。時間に余裕を。
- ・ もう少しじっくり聴きたかった。
- ・ 色々なアイデアを見れた
- ・ オーディエンス賞

3.どちらとも言えない

- ・ 時間と進め方にもっとMTGが必要と思った。

<会社員・経営者>

1.満足

- ・ 一つ一つの学生チームの発表の熱意が伝わってきました。
- ・ 学生が自分で考え、発想している点
- ・ みなさんの熱意を感じました。
- ・ 学生の若いパワーを感じた。

2.やや満足

- ・ たくさんの気付きがあり勉強になりました。もう少しディスカッションの時間があれば良かった。
- ・ 学生の取り組む姿勢がまじめで、しっかり発表されていたのが印象に残りました。
- ・ PBLを就職にどの様に結びつけるかが課題と考えています。

<教育関係者>

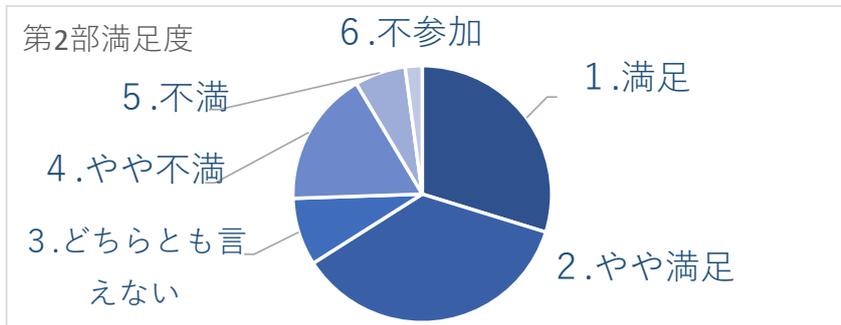
1.満足

- ・ 学生が企業の課題に対して学生ならではの観点から取り組んでいたのが良かった
- ・ 学生のいきいきとしたプレゼンを聞いた

2.やや満足

- ・ 学生の状況やがんばっている姿が見れて良かった。

第2部 学生×企業人のポスター&トークセッション



1.満足	14
2.やや満足	17
3.どちらとも言えない	4
4.やや不満	8
5.不満	3
6.不参加	1
計	47

理由や感想をお聞かせください。

<学生>

1.満足

- ・ 企業人に対して話をするにあたって論理的な文章を作ることができた為
- ・ 伝える力について考えさせられるいい機会になりました。
- ・ 発表を真剣に聞いていただいて、楽しかった。
- ・ いろんな感覚に触れられた

2.やや満足

- ・ 運営に少し雑な部分があり残念です。時間の関係もありますが、全部のチームの発表を聞いた上で、グランプリを決めたかったです（部屋が異なっていた）。
- ・ もう少しだけ時間が欲しかったです。評価そのものを考えるとのスタートラインは最高でした。
- ・ 企業人の視点を聞いた。たださらに多角的な視点を深めていくことはできなかった。時間的に。
- ・ 発表うまくいかなかった
- ・ 賞

3.どちらとも言えない

- ・ ばたばたしている。時間に余裕を。

4.やや不満

- ・ 評価のやり方は良かったが、基準があいまいすぎた。時間も短い。企業との交流が少なく、トークセッションでの発表側の立ち位置が分かりにくかった。
- ・ 全てのポスターを見ることが出来なかった。企業と学生のバランス（班内の）があまりよろしくなかった。
- ・ 3つしか見れなかったのが残念だった。グランプリ1つに様々な面で良い評価は難しかった。
- ・ 5分は短すぎると思った。また、どういう流れなのか学生も企業の方も把握できなかった
- ・ よくわからなかった。マイクがハウリングしていた。
- ・ 何について話し合うか説明不足だった。

5.不満

- ・ 効率の悪さ。7チーム全部を評価できないところ。同じチームの社会人の方が学生以下の対応でがっかりした。⇒ ディスカッションの内容と違う内容を話していた。移動が多い。休憩時間がない。
- ・ 流れが判りづらかった
- ・ 必要性を感じない

6.不参加

- ・ 所用につきすいません。

<会社員・経営者>

2.やや満足

- ・ 時間が足りず、不完全燃焼の部分もあったが、学生と交流できる貴重な機会を頂いて良かった。次回はトークセッションを長めに設定してもらえると嬉しいです。
- ・ 視点など良かったが、声が小さくて取り組みを理解できないのがあった。
- ・ 理解不足でなかなかうまくとき込められなかった
- ・ 声が聞き取りにくい
- ・ 時間が短かった

3.どちらとも言えない

- ・ 評価する時間が短った為、学生とあまり話せませんでした。

4.やや不満

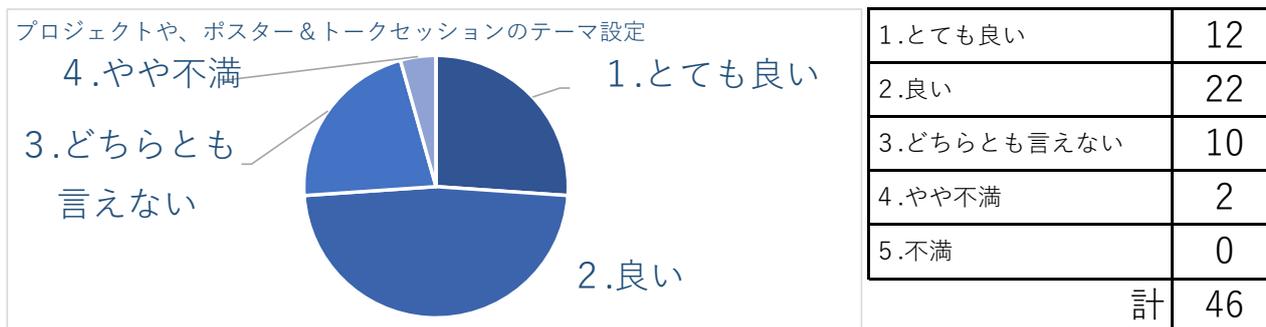
- ・ わかりづらかったです。まとめは欲しい。あと学生がマイクなしで話す中、司会者がマイクで話すのは迷惑でした。
- ・ 声が響いて話が少し聞きづらかった。

<教育関係者>

1.満足

- ・ 取り組んでいる学生側の意見や、他業種の方と意見交換できたのはとても良い機会だった。
- ・ 企業人は学生と対話をする場などなかなかない経験をさせてもらいました。
- ・ 学生のいきいきとしたプレゼンを聞いた。新しいつながりができた。

4	学生の取り組むプロジェクトや、ポスター&トークセッションのテーマ設定についてはいかがでしたか。 (当てはまるものに、○をつけて下さい。)
---	---



学生の取り組むプロジェクトや、ポスター&トークセッションのテーマ設定についてはいかがでしたか

<学生>

1.とても良い

- ・ トークセッションの際も企業の方が寧ろ興味津々な様子やこのプロジェクトの目的を達していること示しているように伺えました。
- ・ 若者らしい新しい視点があった。京都という限られた地域だからこそ深く考えられる。
- ・ 学生・企業の双方に当事者意識の持てる内容だったと思います。
- ・ 良かった

2.良い

- ・ 価値観やふだん意識していない部分を企業の人をふまえてお話が出来て良かった。
- ・ 学生が企業と交流できるから。
- ・ 新しかった

3.どちらとも言えない

- ・ トークセッションがぼんやりしすぎていた。3チーム評価できなかった。
- ・ プロジェクトは良いが、トークセッションのテーマが判りづらかった
- ・ 何を目的としているのかがわかりにくいものがあった。
- ・ 熱意が伝わらないものもあった。
- ・ 企業が課題提示している

4.やや不満

- ・ テーマがよくわからなかった。

<会社員・経営者>

1.とても良い

- ・ 大学生から就職（企業）を考えていること

2.良い

- ・ 受け入れる企業、指導する教官？の自由な発想を引き出す力量がやや不足しているような気がした。

3.どちらとも言えない

- ・ 課題／与件の整理とブールというものはもう少し指導が必要ではないか？
- ・ 内容（テーマ）がバラバラで評価しにくいと感じた
- ・ 時間が少し短い気がする。

<教育関係者>

2.良い

- ・ 評価軸を自分たちで決め、評価していくことというのはとても難しいが新しい発見がありました。
- ・ 全体的に良かったです。提案について検証して再提案までできればさらに深まるかと思います。

4.やや不満

- ・ もっと学生の主体性を引き出せるようなものになれば良いと感じる。自らやりたくなるようなものに…

5	最後にご意見・ご要望など、ご自由にお書きください。
----------	---------------------------

<学生>

- ・ 連絡中の誘導が悪かった。誘導に関してスタッフの認識がバラバラだった。
- ・ 京大からも参加させていただけないものかと思いました。
- ・ 本日はこのような機会をありがとうございました
- ・ ありがとうございました。
- ・ 時間に余裕を。
- ・ 良い会でした。
- ・ 楽しかった

<会社員・経営者>

- ・ 活動を通じて、学生の成長のみならず、地域企業の課題解決に繋がるこの取り組みが続いてほしいと思います
- ・ シンプルに楽しかったです。学生の声が直接聞けるはありがたい。初体験でしたがエンジョイできました。
- ・ 我々はアウトプットしか見えないが、プロセスを指導する大人がもう少し頑張ったほうがいいかもです。

- ・ グローカルさんのすべての活動にいつも心を動かされます。これからもよろしくお願いします
- ・ えんぴつしか持ち込めない等の制限は事前に周知いただけるとありがたかったです。
- ・ 学生が自分事として活動できるか。教官や企業の努力がさらに必要な気がする。
- ・ 産官学のうち、産のサポーターを多く取り組む仕掛作りをしてほしい
- ・ 学生の自由な発想、価値観を聞くことが出来て面白かったです。
- ・ 有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・ 学生との交流する時間がもう少し欲しい
- ・ 会の進行等もう少し事前準備を要する

<教育関係者>

- ・ ポスターセッションについて、会場がポスターセッションに向かない。声が聞き取りにくい。
- ・ 今回参加させてもらって、私自身が勉強になりました。ありがとうございました。

